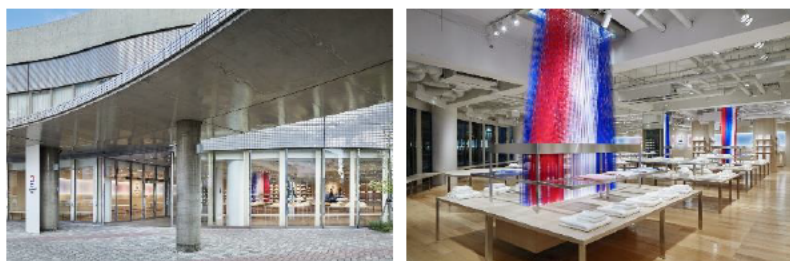


今治タオル工業組合

年間数百トン規模で発生する今治タオルの端材を活用し、
日本最大のタオル産地として今治タオルの資源循環に向けた取組を推進

概要

同組合は、今治タオルの産業発展を目的にブランド管理、国内外でのプロモーション活動、人材育成による業界全体の技術力向上等を担う。
今治タオル工業組合の会員数は現在78社（2024年12月時点）。



倉敷紡績株式会社（大阪市）の運営するアップサイクルシステム「L∞PLUS（ループラス）」と連携し、組合員から回収した今治タオルの端材「捨て耳」や使用済の今治タオルを回収して「アップサイクルタオル」を製造。その他、同システムで製造したアップサイクル原糸を用いて「奈良靴下」が製造される等、産地連携にも取り組む。
また、規格外品やモデルチェンジ時のタオル在庫は、「航空機整備用ウェス」として利活用を進める。

アップサイクル
(原糸)

(タオル)

航空機整備用ウェス



取組ポイント

廃棄されていた資源の用途拡大

【タオル端材「捨て耳」、使用済タオル】

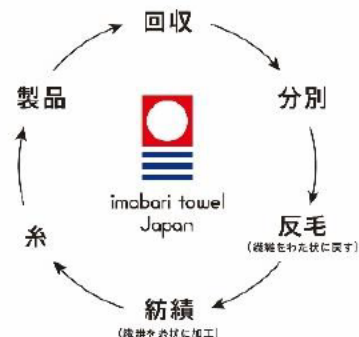
組合員から回収したタオル端材「捨て耳」を倉敷紡績株式会社独自の開繊・反毛技術を用いて原糸に戻す「L∞PLUS（ループラス）」でアップサイクル原糸にし、タオルを製造する仕組みを2021年に構築。

2023年には、同組合が運営する販売施設の今治タオル 本店に「タオル回収ボックス」を試験的に設置し、顧客から使用済の今治タオルを回収して同システムによる再資源化を検討。

同組合ではオフィシャルショップでアップサイクル原糸を用いたグッズの販売等を通じて普及啓発を図る。



アップサイクルシステム「L∞PLUS」



【規格外品やモデルチェンジ時のタオル在庫】

今治タオルの吸水性を生かして、2022年から日本航空株式会社（JAL）と連携し、航空機のオイル汚れ等を拭き取るためのウェスへの利活用を検討開始。2024年8月には羽田空港で採用。

今後、今治タオルの資源循環に向けた取組を更に発展させ、産地全体として循環型社会の実現を目指す。

企業情報

- ・事業内容 タオル製造業に関する指導及び教育、調査研究、組合ブランド推進事業 等
- ・所在地 愛媛県今治市東門町5-14-3
- ・電話番号 0898-32-7000
- ・ホームページ <https://itia.or.jp/>

